

ウォーレン社会主義にトランプ勝率 6 割

米景気と米株式に有害、民主党候補の超リベラル政策

株式会社ジャパンエコノミックパルス
Japan Economic Pulse Co., Ltd.
info@j-pulse.co.jp

2019/10/23

トランプ大統領は民主党の弾劾調査やファミリーの税務申告問題など政治的に危うさを孕むものの大統領選の民主党候補にウォーレン女史が選出されれば、余りにリベラル色の濃い超左派政策を掲げる社会主義者だけに、現職大統領が米景気後退（リセッション）さえ回避できれば、ワシントンの選挙予測のプロの見立ては 60%の確率でトランプ氏がウォーレン氏に勝利するという。

米財界が忌避するウォーレン社会主義

弊社ワシントン情報筋が、「トランプ大統領は民主党の弾劾調査やファミリー企業の税務申告問題など政治的には危うさを孕むものの、民主党候補がウォーレン女史なら、リセッションさえ回避できれば、余りに左過ぎる彼女の種々政策に助けられ、信頼できる選挙プロの予想では 60%の確率でトランプ勝利」と強調する。

野党民主党は 15 日、20 年 11 月の米大統領選に向けトランプ弾劾調査を始めて初の候補者によるテレビ討論会（4 回目）をオハイオ州コロンバス近郊で開催した。バイデン前副大統領が「弾劾に動く以外に選択肢はない」と叫び、ウォーレン上院議員が「誰もが法に従わなくてはならない」と弾劾の必要性で歩調を合わせた。

米政治専門サイト「リアル・クリア・ポリティクス」が 8 日に発表した主要世論調査の平均支持率の分析によれば、民主党大統領予備選でウォーレン上院議員（70）の支持率が 26.6%と本命視されたバイデン前副大統領（76）の 26.4%を僅かに上回り初めて首位に立った。

ペロシ下院議長（民主党）がトランプ大統領の弾劾調査を発表した直後の前回調査（10 月 1 日）ではバイデン氏 26.1%、ウォーレン氏 24.4%、バーニー・サンダース上院議員（78）16.7%だった。

バイデン氏は、オバマ前政権の副大統領として知名度や長年の上院議員の経験から、中道穏健派としてトランプ氏に勝てる候補として一番人気だったが、ウクライナ検事総長が同氏の息子が役員を務めた天然ガス会社を捜査していた問題で、バイデン氏が検事総長解任を要求したとトランプ氏が主張、支持率低下に響いた。

トランプ大統領による「バイデン叩き」が奏功したということだが、バイデン氏を支持率で初めて抜いたウォーレン女史が、民主党の大統領候補となれば、1) 空前絶後の好景気をもたらしたトランプ減税の見直し（法人増税）、2) 銀行証券分離グラス・スティーガル法の復活、3) 富裕層への課税強化（格

差是正）、4) エネルギー政策で温暖化防止、5) 保護主義的貿易政策—等ウォール街はじめ財界には到底受け入れられない政策が目白押しことになる。

「米フェイスブック創業者ザッカーバーグ氏が、民主党ウォーレン上院議員は自社の『存在』を脅かす脅威だと語っている。それもそうかもしれない。20 年大統領選で民主党候補の指名を目指すウォーレン氏は、巨大ハイテク企業の解体のみならずフェイスブックはじめ大企業や富裕層に対する大幅増税も求めているからだ」（英 FT 紙 10 月 14 日電子版『California's new model for fixing inequality（カリフォルニア新モデルで格差是正）』）。

むしろ、「経済格差や社会の分断に敏感な若者や女性たちがウォーレン女史を後押ししているが、法人税が増税される分、企業の税引き後利益が圧迫され、株価下押し要因になる面もあるだろう」（日本経済新聞 10 月 7 日付「オピニオン欄『米大統領選「まさか」再び？・ウォーレン氏若者ら支持』）。

ある米系投資家は「9 月 24 日のダウ平均の下げの半分は、前日に米ニューハンプシャー州の民主党大統領候補の世論調査でウォーレン氏の支持率が 27%に達し、アイオワ州に続き首位に立ち、『ウォーレン大統領』を警戒した売りだった」と打ち明ける。

支持率を伸ばす超左派ウォーレン上院議員は格差是正を訴え、労働者や低所得者、女性の権利向上などを主張、大企業や金融業界の収益圧迫が懸念されて米ウォール街は「ウォーレン・リスク」に身構える。

問題は、余りにリベラル色の濃い左過ぎるウォーレン女史が民主党候補の指名を勝ち取るにしても大統領選で勝てるのかということだ。米国が景気後退に陥れば、その可能性は高まるが、トランプ大統領は米中貿易戦争で失速した米景気を FRB の利下げで下支え、リセッションを是が非回避する意向であり、やはり現職大統領が有利とされる。

トランプ氏の資金力はウォーレン女史の 5 倍

ある在京の米系投資家が、「資金力は選挙戦の命綱であり、否応なく 1 年余に及ぶ長丁場の選挙戦は、ウォーレン女史を圧倒する豊富な資金力を有するトランプ大統領が有利に展開することになる」と解説する。

事実、共和、民主両党の大統領候補がこれから 1 年余に及ぶ長丁場の選挙戦を戦い抜くには、想像を絶するカネ（選挙資金）が必要となることは言を待たない。

選対本部から公表された民主党各候補の 7-9 月期の献金収集額リストによれば、首位は今年 2 日に動脈閉塞（ステント）手術を受けたサンダース氏が 2530 万ドル（約 27.3 億円）、2 位がウォーレン女史で 2460 万ドル（約 26.7 億円）、3 位がピート・ブティジェッジ・インディアナ州サウスベンド市長の 1910 万ドル（約 20.6 億円）、そして 4 位に 1520 万ドル（16.4 億円）のバイデン氏が辛うじて滑り込んだ。

資金力は選挙戦の命綱であり、各候補の勢いを示すものであることは言うまでもない。バイデン氏は次男ハンター氏の「ウクライナ疑惑」へのトランプ大統領の執拗な追及が奏功し、早くも献金収集力に陰りが見えている。

一方、現職大統領のトランプ氏が同時期に集めた献金額は 1 億 2500 万ドル（約 135 億円）と桁違いの金額であり、民主党の弾劾調査発表後の 3 日間で 1 日平均の献金額が 4 倍に跳ね上がっている。

つまり、トランプ支持のコア層が危機感を抱き、普段より多くの献金を行ったということだ。もちろん、大統領選の勝敗は資金力だけで決まるわけではないが、ウォール街はじめ大企業の支持を得る現職大統領と「草の根」小口献金に頼るウォーレン女史の資金力の違いが改めて浮き彫りとなった。

一方、ホワイトハウスが 10 月 8 日、ペロシ下院議長に対し下院が進める弾劾調査に一切協力しないと通告すると共に、「大統領、危うし」と危機感を強めたトランプ応援団エバンジェリカルズが動き出した。

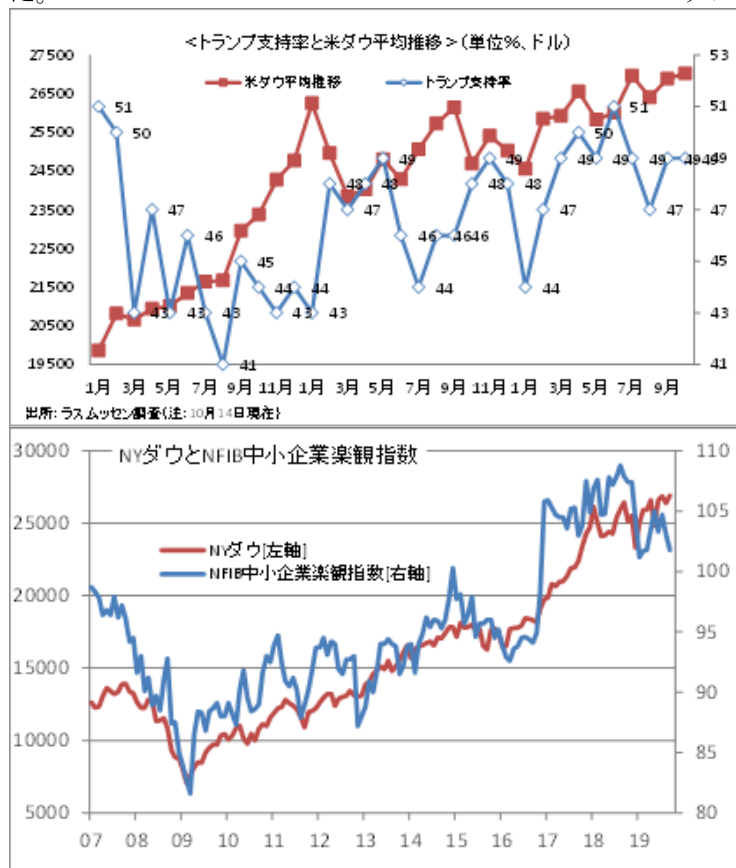
2016 年の大統領選でトランプ氏を大統領に押し上げた宗教右翼「エバンジェリカルズ」を率いる牧師たちが中西部、南部を中心にトランプ支持キャンペーンを始めたのだ。著名な保守派テレビ伝道師で「トランプ氏の祈祷師」とも言われるフランクリン・グラハム師は 2 日から 10 日間、ノースカロライナ州でバスツアー伝道を展開、7 か所で説教を続ける。

フランクリン・グラハム師の父親は、昨年他界した米国の最も著名なキリスト教伝道師ビリー・グラハム師である。歴代大統領の相談相手であり、父親が福音主義を説いたのに対し、フランクリン氏は保守的な政治色の濃い反同性愛主義や反イスラム主義を全面に押し出す人物だ。

ノースカロライナ州グリーンビルで開かれた集会には 1 万 3800 人のエバンジェリカルズが結集、トランプ大統領のために祈祷した。

「アメリカの決断」(Decision America) と銘打ったキャンペーンでは、「我々はトランプ大統領を守るための第一線に立とうではないか」と単純明快なスローガンが響きわたり、インタビューでグラハム師は「万一口トランプ大統領が弾劾されるようなことがあれば、この国は崩壊するだろう。政治家たちは（弾劾などよりも）移民問題とか貿易問題といったアジェンダに集中すべきだ」と主張した。

因みに、弊社ワシントン情報筋は、「あるワシントンの選挙予測のプロの見立ては民主党の大統領候補にウォーレン女史が選出されれば 60% の確率でトランプ氏が勝利する」と強調する。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提

供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。